

科研「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」

第6回 研究会記録

(2011/11/5(土) 13:00~17:40 @本郷サテライト7階会議室)

13:00-

研究活動関係

1) Pollock 編著書評の進捗状況報告 (水野より)

- ・17本中11本について英文原稿が提出され、科研HP (メンバー専用名: パスワード: bungakukaken) にアップ済み。 <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ymizuno/pollock.html>
- ・のこるタミル (高橋孝信先生)、テルグ (山田桂子先生)、グジャラターティー (井坂理穂先生)、ヒンディー2 (石田英明先生) も進行中。ウルドゥー1 (山根聡) は萩田先生より進捗状況をうかがう。シンハラについては野口忠司先生、渋谷利雄先生に打診したが断られ、やむなく欠落とす。
- ・全体をとりまとめる文章は運営委員会で取りまとめ、年内には全体の原稿を整える。

2) 論集につき

- ・岡口典雄先生より3本、丹羽京子先生より1本、原稿を頂いているので、今年度中には『南アジア言語文化』として刊行したい。原稿の締め切りは12月31日。
- ・以前に立てた4本柱A. せめぎあう文学伝統 (ノミネート8本)、B. 文学の場 (創作、享受、伝承) (ノミネート8本)、C. 言語表現技法と諸芸術 (ノミネート1本)、D. 文学と歴史的事件 (ノミネート0本) <http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ymizuno/ronsyu.html> にしたがって執筆をお願いしたい。
- ・併せて翻訳ものでも可とする。(坂田先生、臼田先生 翻訳もの準備あり)

研究報告 (商業出版『文学史』の執筆に向けて)

1) 水野善文: 「語り部」という視点から

- ・「語り部としてのジャイナ教徒—獅子座三十二話を中心に—」について<概要別紙>
- ・石原美里先生より叙事詩・プラナーの「スータ」に関する自身の最近の研究についてコメント。

2) 坂田貞二: 言語横断的トピックにつき

- ・「文学史叙述の途を探る: 一案として、時代と言語空間を越えて伝わり親しまれている作品を翻訳・紹介し、その由来・背景を記す—ヒンディー語地帯におけるラーマ物語を古代、16世紀、現代にわたって垣間見る事例から—」<レジメ参照>
- ・坂田報告を受けて、岡口典雄先生より自身の論考「パンジャービー文学史におけるバーラハ・マーハー」についてコメント。 <休憩 15:45-16:05>

3) 臼田雅之: 倒叙体の可能性とインド文学史の構想<レジメ参照>

今後の進め方についての全体討論

- ・倒叙体はトピックによっては面白そうだが、すべての項目に採用するのは難しいかもしれない。たとえば、現代の映画芸術を倒叙体で記述すると、原作を探る方向のみならず、ラサ論などの文学理論と絡めて語れるだろう。
- ・先に設定した論集の4本柱をもとにした諸論考によって提示されるであろう共通テーマや、今日具体的に提示された「語り」「ラーマ物語」「十二ヶ月詩」など、トピック (テーマ) の執筆を担当する者は一人とし、他の時代、他の言語のケースについては、それぞれ専門のメンバーから情報提供を受けつつ、まとめるのはどうか。
- ・ひとまず運営委員がサンプルを示してみる。映画については深尾先生に是非。
- ・FINDAS 事業で形にしなければならないハンドブック (リファレンスブック) に関しては言語・地域ごとにまとめる。現在までに、東外大の間接経費特別講義でお願いしたベンガル、タミル、ヒンディー、カンナダ、グジャラターティー、オリヤーに関しては、そのレジメが土台となりうる。(詳細はFINDASメンバーで検討する)
- ・次回の研究会は年度内にもう1回開催したい考えだったが諸般の事情から無理。来年5月を予定。かわりに運営委員会を頻繁に開催して、全体の舵取りをする。

<翌6日のFINDAS共催ワークショップの記録は、同HPをご参照ください>